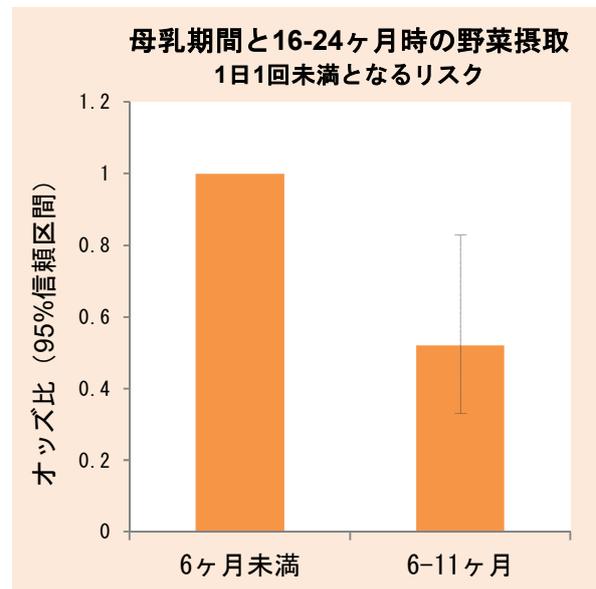


## 大阪母子保健研究 16-24 ヶ月追跡データの結果 母乳期間と幼少期の野菜・果物摂取との関連

**背景：**これまで欧米諸国を中心に、子どもの母乳期間・離乳時期がその後の食習慣に関連していることが報告されていますが、非欧米諸国からの研究報告はありません。

**方法：**大阪母子保健研究のベースライン調査、第1回（生後2-9か月時）と第2回追跡調査（生後16-24か月時）に参加した母子763組を対象としました。第2回追跡調査で用いた自記式質問票より、母乳期間、離乳開始時期、そして野菜と果物の摂取頻度を尋ねました。そして、ロジスティック回帰分析を用いて、母乳期間、離乳開始時期（説明変数）ごとに野菜・果物の摂取頻度（目的変数）が1日1回未満となるオッズ比（95%信頼区間）を計算しました。

**結果：**母乳期間ならびに授乳開始時期ともに、16-24ヶ月時の子どもの果物の摂取頻度とは関連はみられませんでした。一方、野菜摂取頻度については、母乳期間と関連が認められ、母乳期間が6ヶ月未満の子どもと比べて、6ヶ月以上母乳を飲んだ子どもは、16-24ヶ月時の野菜摂取が1日1回未満となるリスクが統計学的に有意に低くなりました（右図オッズ比0.53、95%信頼区間0.34-0.84）。この関連は、母親の学歴、世帯収入、妊娠中の母親の野菜摂取量を調整しても変わりませんでした（オッズ比0.59、95%信頼区間0.36-0.97）。なお、離乳開始時期と野菜摂取との関連は認められませんでした。



**結論：**6ヶ月以上の母乳摂取は、その後の子どもの野菜の低摂取を防ぐ可能性があるかもしれません。

**出典：**Okubo H, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Hirota Y. Feeding practices in early life and later intake of fruit and vegetables among Japanese toddlers: the Osaka Maternal and Child Health Study. Public Health Nutr 2016; 19: 650-7.